

## 3つのポリシー

## 児童教育学部

## 〔ディプロマポリシー〕

児童教育学部のディプロマポリシーは、「知識・理解」「思考力・判断力・表現力」「主体性・多様性・協働性」の3つのカテゴリーで構成されています。学科が定める所定の単位を取得し、教育・保育の分野における専門性、学士力、豊かな人間性や社会性、およびコミュニケーション力を備え、教育や保育の分野において社会で貢献できる資質を身に付けた者に、学位を授与します。

## 〔カリキュラムポリシー〕

児童教育学部は、建学の精神であり、学園の信条である「親切」を根幹としています。したがって、教育課程では、「個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に纏った、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成する」ことを目的としています。この目的を達成するため、第一に、学士力向上を目標として教養科目、外国語科目などを全学共通で設け、幅広い視野に立った豊かな人間性を育成しています。第二に、教育・保育の分野を中心とした豊かな専門知識に支えられ、時代の変化に対応できるコミュニケーション力に基づく優れた実践力と教育への深い見識を備えた職能人を育成するため、必要な専門科目を設け、それらが有機的連携を保ちつつ、体系的な教育課程を実現しています。学部全体では、コミュニケーション力を有し、教育や保育の分野において社会貢献できる人材を育てるための教育課程を編成しています。

## 〔アドミッションポリシー〕

名古屋女子大学は、長年にわたり学園の信条である「親切」を根幹として、個々の人格を陶冶し、かつ高い教養を身に付け、真の男女平等の実現を目指し、よき家庭人であり力強い職能人としての女性を育成してきています。これらの教育目的を達成するため、児童教育学部は児童教育学科を設置し、教育・保育の分野における専門知識や実践力が身に付けられるよう教育しています。豊かな人間性や社会性を基盤としたコミュニケーション力を活かし、教育や保育の分野における深い専門的見識と時代の変化に対応できる優れた実践力を身に付けたい人材を求めています。

## 児童教育学科

## 〔ディプロマポリシー〕

## 1 達成目標

子どもにかかわる社会的・教育的・保育的背景を広く学び、コミュニケーション力や教育・保育の理論と時代の変化に対応できる実践力を身に付け、教育・保育に関わる専門的知識や技能、高い教養に裏打ちされた豊かな人間性や社会性、高度な指導力や地域貢献力を備えた職能人(幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士)として社会に貢献できる人材となること。

## 2 学修成果

「学士」を授与される学生は、以下のような知識や能力を有します。

- ・教育と保育の理論に関わる知識および豊かな人間性を基盤として、子どもの成長を支援する実践力を身に付けていること。
- ・主体性および協調性、協働の基盤となるコミュニケーション力を備え、自らの成長に創造的に向き合う態度を身に付けていること。

## [カリキュラムポリシー]

### 1 人材育成目標

主体性と協調性、高いコミュニケーション力で創造的に課題解決に向き合える態度を有し、教育・保育の分野における豊かな専門知識や実践的スキルに加え、豊かな人間性や社会性、高度な指導力や地域貢献力を備えた職能人(幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士)を育成します。

### 2 教育課程の編成目標

#### (1) GPA

GPAを活用して、学修成果を振り返りながら学生指導を行います。

#### (2) 共通科目・入門的専門科目の設定・充実

幅広い教養・コミュニケーション力の基盤を身に付けるために、「人間形成」「一般教育」「芸術」「外国語」「情報・表現」「体育・健康」のカテゴリーに分かれた全学共通科目を配置しています。大学生活における目標を見定めるとともに主体性と協調性を基盤とする課題解決力の基礎を身に付けるために、大学での学びの導入としての入門的専門科目(教育・保育基礎演習)を1年次に配置しています。

#### (3) 履修科目群の具体化

下記6領域において理論と実践を関連させながら高度な専門性を養うため基礎から専門に至る科目を体系的に配しており、カリキュラムマップによって教育課程の体系的性、科目間の関連を分かりやすく示しています。

- ① 自己の教育観・保育観を形成する上で必要な教育の基礎理論になる科目、自ら課題を発見し、問題の解決方法を創造的に探求する能力を開発する演習科目、および保育の本質・目的に関わる科目の配置
- ② 教育と保育の理論と内容に関する科目、教育学・心理学分野を中心に教育の理論面を幅広く学ぶ科目、幼稚園の領域に関する専門的事項を学ぶ科目、保育の対象を理解するための科目の配置
- ③ 教育と保育の実践を支える科目、小学校における各教科目の教育法・指導法に関する科目、保育の内容・方法に関する科目の配置
- ④ 中学校における国語科の教育法・指導法および理論と内容に関する科目、幼稚園・小学校・保育所における国語教育に対応できる科目の配置
- ⑤ 教育実習およびその他の社会での教育活動を奨励する科目の配置
- ⑥ 小学校における外国語および外国語活動、幼稚園・中学校・保育所における国際理解教育に対応できる科目の配置

#### (4) 専門科目群

- ・教育と保育の基礎理論となる科目(必修3科目、選択20科目:講義17科目、演習6科目)
- ・教育と保育の理論と内容に関する科目(選択50科目:講義27科目、演習23科目)
- ・教育と保育の実践を支える科目(選択29科目:演習29科目)
- ・国語教育を支える科目(選択26科目:講義22科目、演習4科目)
- ・実地教育に関わる科目(選択28科目:講義5科目、演習12科目、実習11科目)
- ・初等英語教育を支える科目(選択5科目:講義1科目、演習2科目、実習2科目)

### 3 学修成果測定

- ・ルーブリックを用いたパフォーマンス評価による学修成果の可視化
- ・GPA および単位取得状況による学修成果の達成状況の確認
- ・学修ポートフォリオおよび教職履修カルテによる学修成果の蓄積と確認
- ・保育・教育に関わる専門知識・技能に関する卒業論文(論文・作品製作・演奏等)の審査

#### 4 学修環境

学修成果を生み出すために以下のような学修環境を提供します。

- ・実習、プレゼンテーション、プロジェクト学習(PBL)、ディベートなどのアクティブラーニングの実施
  - ・海外スクールインターンシップ
  - ・少人数教育を重視した教育(ゼミナール)
  - ・演習を通じた内容の深い理解・体験
  - ・基礎スキル育成のための入門的な科目(教育・保育基礎演習、情報、日本語、外国語)
- 特に、講義・演習・実習という科目を通じて、理論と実践を有機的に関連させながら、内容への理解を深めるとともに高い実践力を獲得させ、高度な専門性を身に付けさせます。

[アドミッションポリシー]

##### 1 教育目的・人材育成目標

子どもに関わる社会的・教育的・保育的背景を広く学び、教育・保育の理論と時代の変化に対応できるコミュニケーション力や実践力を身に付け、高い教養と専門性をもって、社会に貢献できる専門的職能人としての教育者・保育者(幼稚園教諭・小学校教諭・中学校教諭・保育士)の育成を目的としています。教育・保育に関わる専門的な知識や技能に加えて、豊かな人間性や社会性を身に付け、高度な指導力や地域貢献力を備えた教育者・保育者を育成します。

##### 2 求める学生像

- ①知識・技能:高等学校での授業科目を幅広く履修し、教育と保育の領域における専門知識や技能の基盤となる基礎学力を持つ人
- ②思考力・判断力・表現力:柔軟で多面的・論理的な思考に基づく確かな判断力を備え、自らの意見を適確に伝えるコミュニケーション力を有する人
- ③主体性・多様性・協働性:教育・保育の分野に深い関心を持ち、多様な他者と協働しながら主体性に行動できる教育者・保育者を目指す人